

CSR・環境活動の取組

製品やサービスの提供や雇用の確保など、経済社会の発展に重要な役割を果たす企業の活動。近年は、資源の採取やCO₂の排出、ごみの廃棄など事業活動による環境への負荷が意識され、CSRの一環として、事業活動や社会貢献活動を通じた環境への取組を積極的に進める企業が増えてきています。そのような取組の中から、ここでは4つの企業の取組を紹介します。

企業の社会的責任として

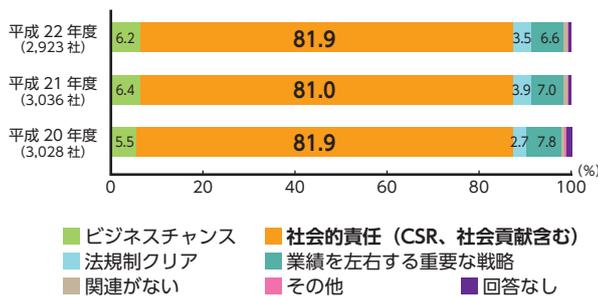
「環境」に取り組む企業が増えています

環境省の「環境にやさしい企業行動調査」(平成22年度)によれば、「企業の環境への取組と企業活動のあり方についてどう思うか」という設問に対して、回答した企業(2923社)の約82%が、「社会的責任(CSR)である」と答えており、多くの企業が、環境への取組を「企業の社会的責任」と考えていることがうかがえます。また、回答企業の約77%が環境に関する経営方針を策定しています。

環境への取組は企業によって様々ですが、具体的な取組として、事業活動について環境パフォーマンス評価や環境会計、環境マネジメントシステムを導入したり、自社の製品やサービスについて環境ラベリングやライフサイクル・アセスメント、環境適合設計を導入したりするといった方法があります。いずれも、事業活動における環境への負荷を把握・評価し、消費者や投資家、行政などのステークホルダー(利害関係者)の理解と協力を得ながら、環境負荷削減のための対策を進める有効な手法です。こうした環境への取組について広く社会に公表していくため、「環境報告書」を作成する企業も増えています。

また、事業活動の中にとどまらず、地域活動や社会貢献活動を通じて、企業市民として環境保全や環境教育などに取り組む活動も活発に行われてきています。

環境への取組と企業活動のあり方



(出典：環境省「環境にやさしい企業行動調査」平成22年度)

※太字の言葉はキーワード欄を参照。

キーワード

環境パフォーマンス評価

企業などが、事業活動などで自らが発生させている環境への負荷やそれに係る対策の成果(環境パフォーマンス)について、定性的(性質・傾向)・定量的(貨幣または物量単位)に評価する手法。

環境会計

企業などが、事業活動での環境保全のために投じたコストと、その活動によって得られた効果をできる限り定量的に測定し、その結果を利害関係者に情報公開する仕組み。

環境マネジメントシステム

企業などが、経営や運営の中で環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくための工場や事業所内の体制・手続きなどの仕組み。

環境ラベリング

製品やサービスなどの環境情報を提供するためのラベル。

環境ラベルの一例



統一省エネラベル



エコマーク



間伐材マーク



グリーン・エネルギー・マーク

ライフサイクル・アセスメント

製品・サービスによる環境負荷の低減を図るため、原料採取から製造、廃棄に至るまで、製品・サービスのライフサイクル全体にわたって発生する環境への負荷(資源やエネルギーの消費、環境汚染物質や廃棄物の排

出など)を、科学的、定量的、客観的に評価する手法。

環境適合設計

製品の設計から、材料の調達、生産、流通、使用およびサービスの提供、廃棄、リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を捉えて、環境負荷を可能な限り低減することを目指して、製品やサービスを設計すること。

環境報告書

事業活動に伴う環境配慮などの状況を取りまとめ、企業が一般に公表する報告書。「CSR報告書」「環境・社会報告書」「サステナビリティ報告書」などのように、環境以外のCSR活動の情報と一緒に取りまとめられる場合もある。